

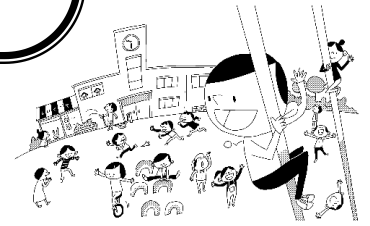
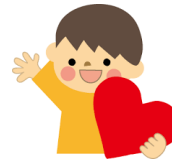
どうとくのひろば

2年生の道徳の授業

主題名：思いやりの心で

ねらい：【親切、思いやり】

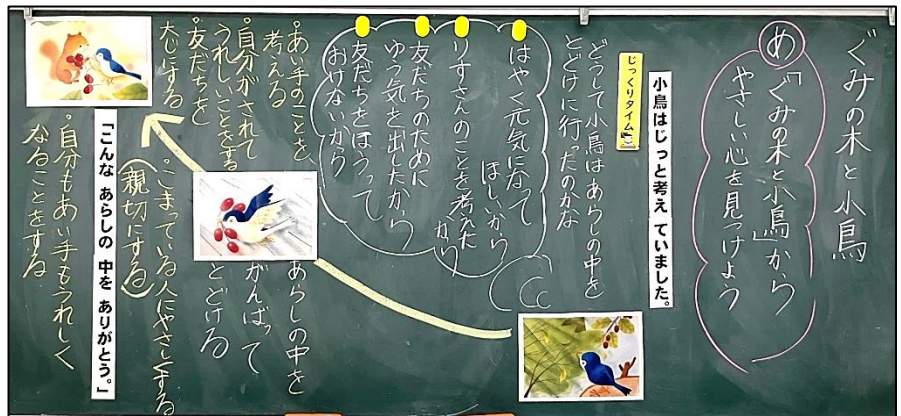
教材名：「ぐみの木と小鳥」



あらすじ：激しい嵐を前に葛藤しながらも、病気で弱っているりすの気持ちを押し量り、嵐の中を飛んでぐみの実を届けに行く小鳥の姿や、その後の二人の様子が描かれている。

授業での具体的な様子

教材文を一読した子供たちは、「りすさんのために嵐の中を飛んで行ったのがすごいな」などと、小鳥の親切な行為に感心していました。「どうして、すごいと思ったの?」と、理由を尋ねると、「自分だったら、危ないから届けられないかもしれない。嵐がやんでから行くと思う」などと、自分と小鳥を重ねて、届けようか迷う気持ちについて考えていました。



次に、それでも小鳥が嵐の中を届けに行こうと思った理由について話し合いました。「りすさんに早く元気になってほしいと思ったんじゃないかな」「りすさんのことをとても心配したからだと思うよ」「相手のことを考えることが大切なんだね」などと、友達と考えを交流することを通して、実行に移すために大切なことを捉えていきました。

その後、嵐の日にも関わらず、ぐみの実を届けてくれた小鳥に対してりすがお礼を言う場面を取り上げ、教師と子供で役割演技をしました。小鳥役の子供が「りすさんのことが心配だから来たよ。早く元気になってね」のように、自分で考えた言葉を添えてぐみの実を渡し、りす役の教師が「こんな嵐の中をありがとう。心配してくれてとてもうれしいよ」などと、即興でやり取りをしました。小鳥役の子供に「届けてみてどうだった?」と尋ねると、「りすさんが喜んでくれたから、頑張っけて届けてよかった」などと話していました。この様子から、親切な行為をすることで相手が助かったり喜んだりするだけでなく、自分も嬉しい気持ちになることに気付けるようにし、親切な行為のよさを捉えていきました。

最後に、今日の学習の中で心に残ったことやこれから大切にしたいことをペアで伝え合う時間を設けました。「困っている人がいたら、自分も相手も嬉しくなるようなことをしていきたい」などと、親切な行為のよさを感じ、実践への意欲を高めている子供もいました。今後は、普段の生活で見かけた親切な行為を他の子供たちにも紹介し、思いやりの心を学級全体に広げていきたいと考えています。

----- 切り取り -----

道徳だよりへのご質問・ご感想

() 年 () 組 児童名 ()

